梓川地区スポーツ祭2018

7月8日(日)に梓川地区スポーツ祭2018が梓川体育館と梓川小学校を会場に開催されました。

ミニバレー競技

シャッフルボード競技

囲碁ボール競技

梓川を探検！ 梓川ウォークラリー2018

去る5月27日（日）、梓水苑を拠点に、梓川ウォークラリー2018が開催されました。晴天の下、15チーム56人の参加者が2コースに分かれ、約6キロのコースを歩きながら順位を競いました。

木々の緑が茂り、花々が咲くのどかなコースを、コマ図を読み解きながら、途中7箇所のチェックポイント問題を解き進みました。観察ゾーンの大妻神社では、木陰でひと休みしながら、ゴール後に出される問題に備えて鳥居や本殿の観察をしていました。幼児から大人、ペットの犬まで全員無事にゴールにたどり着きました。小学生のみのチームもありましたが、上級生が下級生を気遣いながら歩く姿も見られました。

閉会式では、全チームに参加賞を、上位チームには梓水苑のランチ券が贈呈され、楽しいウォークラリーとなりました。

参加者は、「神社や道祖神を巡ることができて、梓川地区の魅力を再発見することができた」と話していました。

●競技結果●

総合
- 優勝　南北条（69点）
- 準優勝　南大妻（68点）
- 第三位　上野（61点）

シャッフルボード
- 優勝　上野
- 準優勝　北大妻
- 第三位　八景山

囲碁ボール
- 優勝　南北条
- 準優勝　上立田
- 第三位　南大妻

ミニバレー
- 優勝　下角
- 準優勝　南大妻
- 第三位　北大妻

市消防ポンプ操法大会
第36分団 第三位！

6月3日（日）に野麦峠スキー場駐車場において、平成30年度松本市消防ポンプ操法大会が開催されました。この大会は、各消防団に配備されている消防ポンプの操法を競う大会です。ポンプ操法とは、設置された防火水槽から給水し、火災現場を意識した火点と呼ばれる的を目掛けて放水し、撤収するまでの一連の動作を競います。大会ではタイムが計測され、隊員の動きの機敏さや機器の正確な操作が求められます。各地域の分団では大会に向けて、出場する選手はもちろん、他の団員も一丸となって訓練をサポートし、実際の火災現場等で役に立つように操法の技術や規律訓練、安全確認等の練習を日々積み重ねました。

大会には全部で16分団が出場し、梓川地区からは、小型ポンプ操法の部に39分団（横沢、氷室及び岩岡）が、ポンプ車操法の部に36分団（小室、北々条、南北条及び大久保）が出場しました。各分団とも、これまで積み上げてきた練習の成果を十分に発揮し、36分団が第三位という素晴らしい成績を収めました。大会後に健闘を称えあう団員の皆さんの、充実感あふれるさわやかな笑顔が印象的でした。

梓川地区環境美化運動
「春のごみゼロ運動」

5月27日（日）に梓川地区美化活動の一環として、「春のごみゼロ運動」が早朝の5時30分（ごみゼロ時間）から各町会の老若男女が集まり、行われました。

この活動はそれぞれの町内の道路や水路脇などにポイ捨てされているごみを回収し、地域の環境美化に努めることを目的に、地区環境衛生協議会（町会衛生部長）が中心となり、春と秋の年2回実施されています。

この活動で、普段なにげなく車などで通り過ぎる場所に、多くのごみが捨てられていることに気付かされます。「ごみゼロ運動」を行う必要が無いことが、本来の地域環境のあるべき姿ではないでしょうか。そんな環境になることを願い、ごみの無いきれいなまちづくりを心掛けていきたいと思います。

信州中野を巡る旅

八景山公民館主催のバス旅行が6月10日（日）に行われ、今年は信州中野方面に行きました。公民館を出発するなり、取り敢えず「プシュッ」と乾杯。1時間ほどバスに乗り、まずは中野市の信州フルーツランドで、30分間食べ放題のさくらんぼ狩りを体験しました。木によって甘さが違い、「こっちの木の方が甘いぞ」などと言いながら、食べ比べている姿が印象的でした。次に、バラ園に行きました。ちょうどこの日がバラ祭りの最終日ということもあり、屋台や催しなどが行われ、大勢の人で賑わっていました。様々な種類のバラが色とりどりに咲き誇り、幻想的な風景を楽しみました。旅の最後に、小布施温泉のあけびの湯でゆっくりと温泉に浸かり、大宴会を行い、楽しいバス旅行になりました。

雑記帳

新潟県の遠洋漁業漁獲量を例にとると、平成2年に21万トン以上だったものが、近年3万5千トンまで落ち込んでいる。これは、遠洋漁業そのものの衰退が大きな原因とされており、沿岸漁業の漁獲量をみても年々減少している。近年の気候変動により、高水温、温暖化がおこり、漁業資源も変動して資源そのものが減少していることも、原因である。以前は安価であったイワシ、サバ、イカが昨今大幅に高騰し、消費者としても実感するところだ。

大切な資源を次世代に残すにはどのような対策が必要だろうか。漁獲量の調整、養殖業の拡大に加えて、資源が育つ環境も整えなくてはならない。環境問題では、プラスチック製品による海洋汚染が懸念されている。プラスチックは自然に分解されないため、海に蓄積され海流に乗って世界中に広がっていく。50年後、海にいる魚の量よりもプラスチック製品の量の方が多くなってしまわぬよう、対策を願いたい。